

特集 図書館サービスをもっと多くの人に



明治期のちりめん本。
ちりめん加工が施された和紙
に印刷された、浮世絵のような
挿絵と英文のコントラストが美
しい。

『Momotaro』(写真手前)
—1885(明治18)年発行。

「図書館映画」の秘密

阿部 勉

知らない街に出かけて、ふらっと図書館に足を踏み入れることがある。書架の本を借りて机に座ると、部厚い本を覗んでいる老人や宿題に励む高校生、床に座って絵本に見入る子どもの姿が目に入る。そんな光景を眺めているうちに、物語が浮かんでくることも多い。

図書館の静かな空間は、それぞれが本と向き合う場でありながら、同時にその人の佇まいやちょっとした仕草が、いろいろなことを想像させてくれる。彼らは同じ空間に身を置きながら、物語などという窮屈なものに閉じ込められてはいない。一人ひとりが別のストーリーを生きている。

不謹慎な、と思われるかもしれないが、誰かの姿を見たくて図書館に足を運ぶこともあるのではないか。自動販売機のように無人で本がポンと出て来て、誰もいない閲覧室で本を読むようになったら、人は図書館に通うだろうか。

映画監督たちが好んで映画の中に図書館を登場させるのは、その辺に秘密があるのかもしれない。

(あべ・つとむ 映画監督)